

出題 蜚雪ゼミナール

長良北校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

次の傍線部の語の品詞を答えなさい。

- (1) ゆっくり歩く。
- (2) ずっと待っている。
- (3) きらきら光る。

豆知識 雑学コラム

副詞の役割は？

今回のテーマは副詞です。動詞は「走る」のように動作を表す言葉、名詞は「リンゴ」のように物の名前を表す言葉と説明できますが、副詞はというと説明しにくいかと思えます。最初に副詞とは何かから、考えてみましょう。

まず、「副詞」の「副」とはどんな意味でしょうか。「副」というと「副会長」のように何かの役職に伴って補佐する人やものにつけますね。また、「副作用」では、本来の作用とは別に伴う作用のことですね。このように「副」がつく言葉

は、何かに伴うという意味があります。つまり、「副詞」とは「この言葉単独で使うことはなく、他の言葉に伴って使われる言葉」ということになります。

つぎに、「副詞」が他の言葉に伴うとはどういうことでしょうか。問題文を見てみると「ゆっくり」は「歩く」に伴って、「どのように歩いたのか」を説明する役割をしていますね。このように、副詞は用言（動詞、形容詞、形容動詞）に伴って、その程度や状態を説明、修飾する働きをする言葉なのです。

さて、最後に副詞の置く位置について考えてみましょう。下の二つの文を見てみましょう。

- A：とても今夜は暗く静かな夜です。
B：今夜は暗くとても静かな夜です。

Aの文では「とても」の後に名詞の「今

夜」が来ていますね。「とても今夜」は意味不明なので、「とても」は「今夜」を修飾していいことはわかると思いますが、しかしそうすると、「とても」が「暗く」と「静かな」の片方を修飾しているのか、両方を修飾しているのか、明確な決め手がない文になってしまいます。

一方、Bでは「とても」が「静かな」の直前にあることで「静かな」を修飾していると明確にわかります。このように副詞は修飾したい言葉の直前に置くようにしてわかりやすい文を書けるように心がけましょう。

【解答】